

国内におけるアフラトキシン産生菌分布に関する系統的レビュー

— 気候変動によるカビ毒産生菌分布と気象要因の解明にむけて —

成果の特徴

- ・ 気候変動に伴うアフラトキシン(AF)汚染リスクを評価するために、国内におけるAF産生菌の分布に関する系統的レビューを実施
- ・ AF産生菌が関東以西の14県で報告されていることを確認

成果の内容

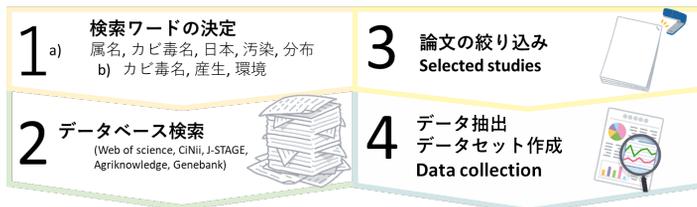
➤ アフラトキシン(AF)とは

- ・ 発がん性を含む強力な毒性を持つ
- ・ 温暖化によりAF汚染地域が拡大
- ・ 国内でも問題となる可能性がある



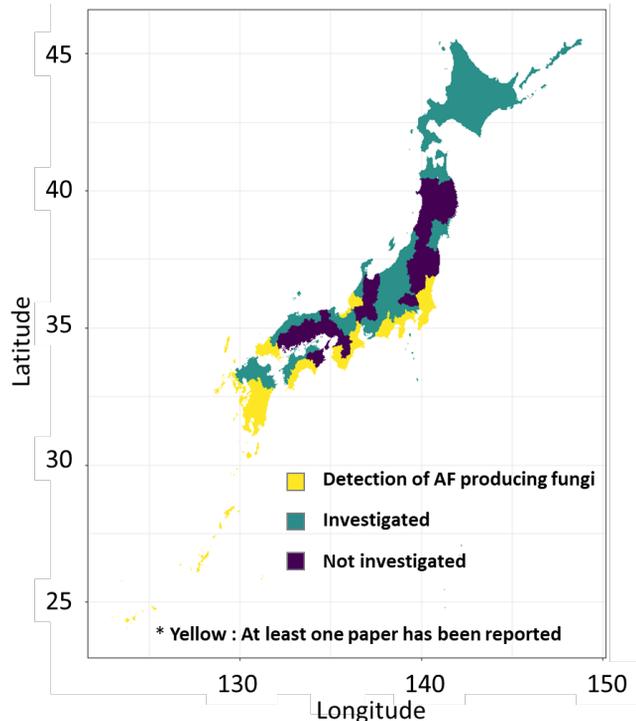
国内を対象に気候変動に伴うカビ毒汚染のリスク評価を研究した例はなく、情報が不足している

➤ 系統的レビューにより情報を収集



気候変動による国内におけるAF汚染リスクを評価するため、過去から現在までAF産生菌の分布に関する研究について調査

➤ 日本におけるAF産生菌の分布実態把握



- ・ 属名、カビ毒名等のワードを組み合わせた検索語を用いて5種類のデータベースから検索を行い、最終的に21論文を選抜・計137件からなるデータセットを作成した
- ・ データセットの結果から、アフラトキシン(AF)産生菌調査は33都道府県で実施され、そのうち1株でも報告されたのは関東以西の14県であることが明らかになった
- ・ AF産生菌の分布を支配する気候気象条件の探索を進めている

想定される用途・連携希望先

気候変動下のカビ毒汚染リスクを評価するための予測モデル開発につなげることで、カビ毒汚染対策への貢献が期待される

※農林水産省の「安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業（気候変動を考慮したカビ毒汚染実態解明並びに汚染低減に関する研究）」(JPJ008617. 23812852)による成果です

担当研究者：塚田 祐子
 所 属：食品研究部門
 食品流通・安全研究領域